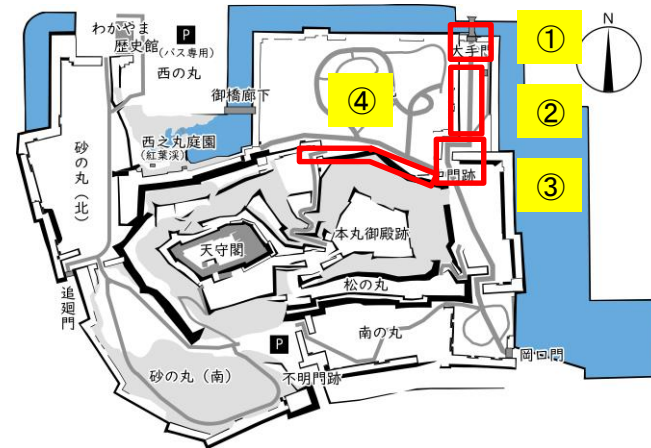


具体的なライトアップのデザイン・演出方法（大手門～二の丸）



■デザイン提案内容

①大手門周辺～②桜回廊

けやき通りからの視認性を高めるべく、大手門の既存照明をパワーがあるものに変更し、大手門の建築様式が引き立つ間接照明を新たに設置。同時に白壁へのライティングを季節に応じた演出ができるカラー照明のライトアップへ変更します。大手門から一直線上に伸びる回廊では、桜と石垣を中心とした演出を展開します。道端には行灯を連なるように設置し、歴史や伝統を重んじながら荘厳さと華やかさを兼ね備えます。

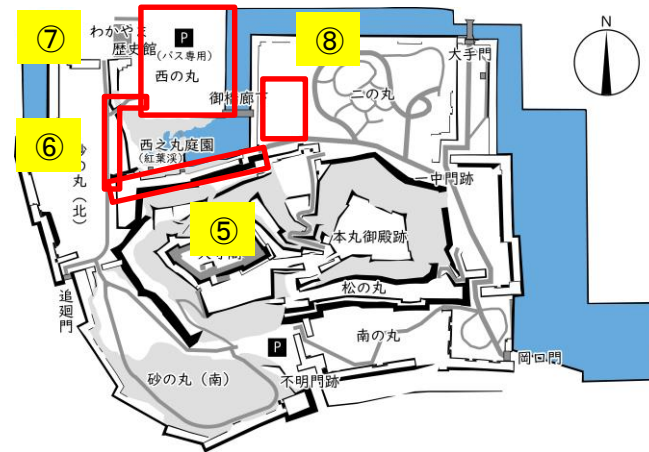
③一中門跡枳形～④伏虎像前通り

蠟燭のような揺らぎが入った行燈を直線上の桜回廊の突き当りに集中して設置することで、フォスポットの要素を生み出します。連続する石垣と伏虎像に明かりを入れ、要所で行燈を設置します。カラー照明による演出は、光に動きを加えることができるため、訪問者の目を惹きつけ奥へ誘うことの一助になります。イベント時に対応できるように歩道側にも照明を追加することで、夜の散策がしやすい環境を創出します。

■コンセプト・基本方針との関係性

市役所や和歌山城ホール、宿泊施設からの視認性が高く目に一番留まる場所のため、夜間でも散策可能だということをライトアップから認識できるようにします。和歌山城へのメインエントランスとして相応しく、けやき大通りからの視認性を高めるカラー照明は、四季を通じて夜の城内がワクワクするような雰囲気を引き立てることで誘引効果を高めます。一番の課題である一中門跡枳形の石垣のエリアから垣間見える伏虎像の前の通りにも光が繋がることで西の丸庭園側への誘引効果を引き出します。

具体的なライトアップのデザイン・演出方法 (西の丸庭園～西の丸広場周辺)



■デザイン提案内容

⑤石垣城壁散策路～⑧御橋廊下東側芝生公園

大手門から伏虎像前の通りまで明るさや華やかさがあるゾーンとして展開してきましたが、主役となる西の丸庭園のライトアップに対して明るさや華やかさを印象づける必要があります。そのため、このエリアでは安全面を考慮した心地よい明るさに抑えるように、白壁や石垣を間接照明で浮かび上げながらバランスの取れた照明計画を行うことで、西の丸庭園のライトアップを引き立てるゾーンとします。

大手門と対を成すエントランスに位置する西の丸広場は、車道側を視認性と冬場のイルミネーションイベントとの連動を見据えてカラー照明で演出性を高めます。広場内はイベント開催時にも賑やかさを添え、入りやすくなるように樹木をライトアップします。石垣の切り通し通路部分は竹垣と石垣が唯一見られる場所であり、けやき大通りからも見えにくい箇所であるため、西の丸からの視認性を高める方策として印象的な光を設えます。

■コンセプト・基本方針との関係性

大手門からの演出性に起承転結を持たせることで、西の丸庭園のライトアップへの期待感を膨らませることができます。アイキャッチとなる西の丸広場への導入を意識した明るさと色の動きを取り入れ、西の丸庭園、天守閣への回遊導線を補助する照明を設置します。

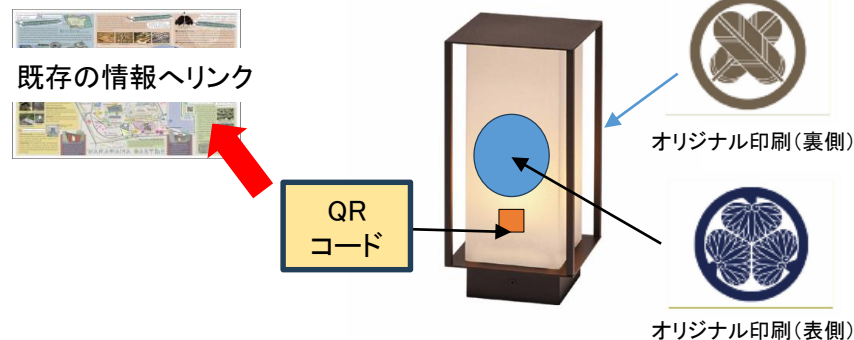
対象エリア内を一体的に回遊するための実施提案

(1) 家紋＋QRコード付き行灯で園路の統一感アップ！

エリア分けした園路に必ず点在させる行灯には、一体感を生み出すと共に、歴史的背景も暗に匂わすことが可能です。

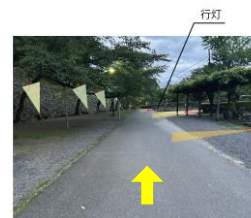
行灯には和歌山城最後の城主の紀州徳川家の家紋とQRコードを入れることで、訪れた人がスマートフォンから和歌山城の歴史を探索するというアクションへつなげることもできます。

今回に関しては、今回の園路の整備に関連する二の丸、西の丸に屋敷を造営して大手筋に城下町を整備した浅野家の家紋も入れることで、家紋と西の丸公園の関係性を表すことを提案します。

**(2) 城内へ導く光の誘導サイン表示**

夜間になると地面に行き先が表示される誘導サインを新たに設置します。

特に足が前に進みにくくなる箇所や園路内交差点などにポイントを絞って設置することで、「何か先にある」という意識づけと、回遊性を促進することを提案します。



夜になると路面に浮かび上がる誘導表示イメージ

(3) 一の橋 照明演出によるアイキャッチの強調で城内へ誘因！

和歌山城が夜でも散策できると意識づけさせることが重要だと考えています。

一番のポイントは車道からよく見える一の橋のライトアップです。走行する車の運転席から見える範囲は橋の高欄側であるため、遠方から大きく光の帯が見えるように演出することで、気づかせ、行ってみようと思わせる施策の一環とします。



照明設置箇所

(4) 和歌山城案内サインの照明設置で歴史を身近に！

回遊を促進するエリアにおいて圧倒的に必要になるのが、夜間の情報視認性です。現時点ではライトを当てない限り見えづらい状況のため、歴史的建造物や文化財に対する説明が日没後でも閲覧できるように、既設の説明看板に照明を設置することを提案します。

その際、ライトアップとの調和を取るために、電球色で眩しさを抑制できるようにします。



想定される看板(一部抜粋)

その他の提案（提案のポイント）

①年間通じて和歌山城を楽しめる演出に対応

一年を通して訪問者が絶えない場作りには様々な仕掛けが必要です。その一役を担う光の演出として、フルカラー照明は和歌山城のライトアップに近い色を設定することはもちろん、自然美を浮かびあげたり催事に合わせた色や動きの演出を事前に設定しておいたりすることが可能です。



例：淡いレインボーカラーのシーン



例：石垣本来の迫力を強調するシーン



例：白色と電球色を組合せたシーン

■季節や催事に合わせたイベント演出

春は桜、夏は深緑、秋は紅葉、冬はイルミネーションなど、和歌山城で展開される様々なコンテンツに対応可能なフルカラー照明。日にち指定はもちろん、1日の中でも時間によって演出を変更することもできます。



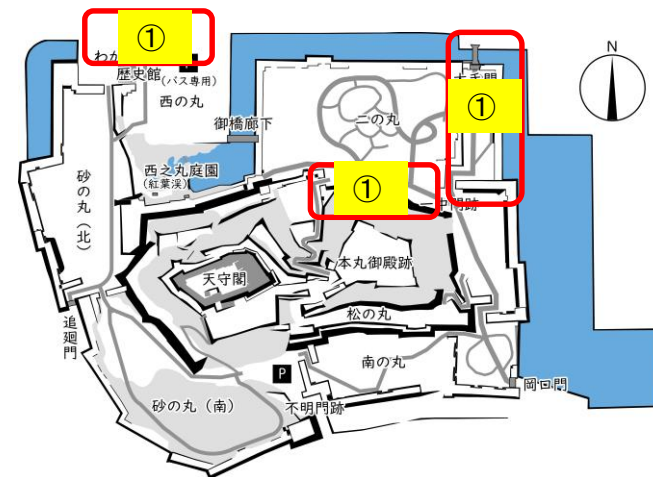
例：夏の伝統色より表現する色を選定
但し：光の色彩のため再現できない色彩もあります
(くすみ、深色など)

■石垣や自然のあるがままの魅力も演出

カラフルな色はキャッチーな演出には効果的ですが、電球色で石垣本来の迫力を際立たせるプログラムも想定。
従来のフルカラー照明であるRGBでは淡いパステルカラーやきれいな白色、電球色を作ることが難しかったところを、RGBLという新しい技術で美しい光（高演色カラー照明）を出せるようになりました。
今回のカラー照明は全て新しく美しい光でご提案いたします。

■イルミネーションに合わせた演出

冬に行われる「けやきライトパレード」に合わせたイルミネーションの色味である、電球色や白色の組み合わせも自由自在です。
けやき大通りと連携した光の演出で一体感を出し、和歌山城への誘導効果を高められます。



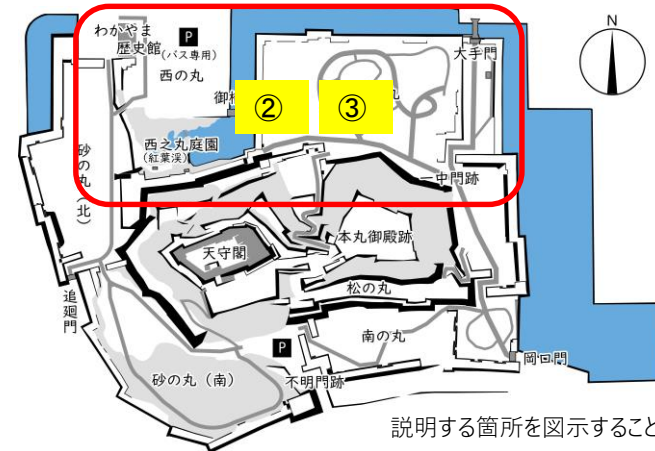
その他の提案（提案のポイント）

②環境と経済性を意識したソーラーライトモジュールの展開

回遊ルートに点在する行灯は全体の統一感を持たせますが、その一部で太陽光が年中届く場所ではソーラーライトモジュールにすることで消費電力を抑制し、環境に配慮したライトアップを展開します。用いるのは従来のソーラーライトよりも効率が良いアイテムを採用し、見た目の良さを追求します。



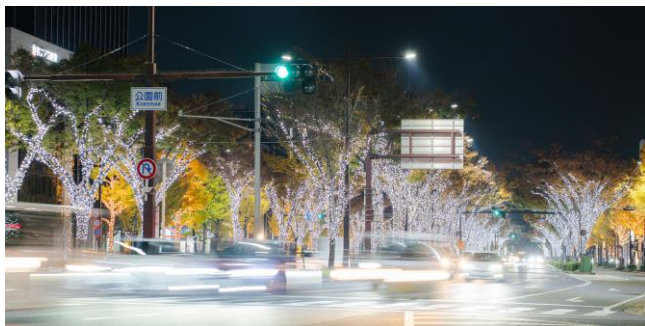
既存電源使用する行灯と同じ形状でソーラーライトモジュールを組み合わせた行灯を各所に展開(但し日照条件が良好な場所に限る)



説明する箇所を図示すること

③けやき大通りイルミネーションとの連動によるウォーカブルに楽しめる和歌山城へ！

イルミネーションとライトアップの相乗効果は決して見た目を美しくするだけでなく、夜間の安全を守り防犯対策にも繋がります。またインフラ面でもイベントなどを作りやすくなり、そこに価値が生まれます。光のもとで人の交流が生まれ、街が賑わい、交通が活性化するように光のインフラを整えることで様々な化学反応が生み出されます。私たちはけやき大通りイルミネーションを実行する立場だからこそ、和歌山城ライトアップに協力して参ります。



- ◎ ナイトタイムエコノミーの活性化
- ◎ BUY LOCALの促進
- ◎ ウェルビーイングの促進事
- ◎ 様々なイベントとの連携

選定機材の特徴、具体的な設置方法、想定する耐用期間、操作性

① フルカラー照明



カラー：RGBL
 消費電力：100W
 寸法：W206 × H208 × D204(mm)
 重さ：4.2kg
 使用数量：約100基
 使用場所：各エリア
 特徴：最新RGBL 4in1LEDを搭載した
 建築用途向けLED防滴ウォッシュライト
 保証期間：1年

■制御コントローラー操作概要

【基本】

年間通じて自動運転(GPS時刻補正つき)

【催事対応】

液晶内のボタンを押して演出プログラム読出し。
 ただし、催事終了後に再度タッチパネル内の「年月日時分秒表示」部分を押ししないと基本のタイマー運転に戻らないので注意が必要



② 冴(行灯)



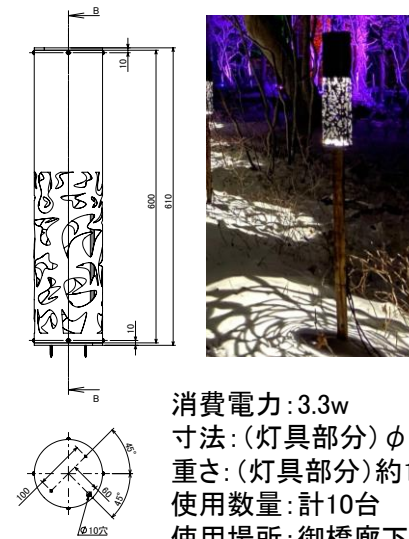
消費電力：3.4w(太陽光0w)
 寸法：W150 × H150 × D300(mm)
 重さ：2.6kg
 使用数量：計58台
 使用場所：園路全域
 保証期間：光源3年、本体1年

③ Lumek Trust(スポットライト)



消費電力：4.2~24w
 寸法：(最大)W105 × H205 × D206.5(mm)
 重さ：(最大)3.1kg
 使用数量：計90台
 使用場所：園路全域
 保証期間：光源3年、本体1年

④ 特注シャドウライト



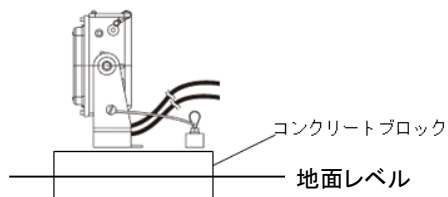
消費電力：3.3w
 寸法：(灯具部分)φ140 × H610(mm)
 重さ：(灯具部分)約1.5kg
 使用数量：計10台
 使用場所：御橋廊下東側芝生公園
 保証期間：光源3年、本体1年

具体的な配線経路 / 安全確保、いたづら等の防止、日中の景観への配慮に対する考え方 ※不足する場合はページを追加すること

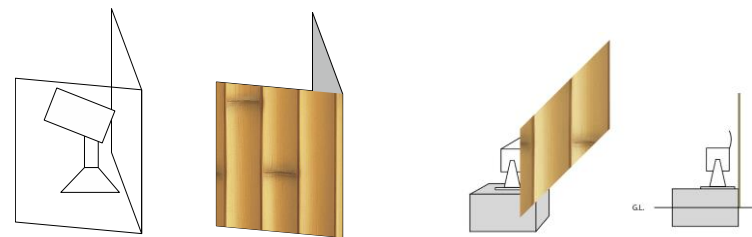
項目	内容
器具固定方法	コンクリブロックにボルト固定を主とする。掘削可の場所はコンクリブロック1/2ほどを埋め込み固定。掘削不可の場所は自重による設置
地中配線方法	掘削深、配管による地中埋設配管
配線経路	人の導線部を避け、分電盤及び引込柱より地中埋設配管にて配線をおこなう。また埋設が出来ないエリアは地上配管にて排水溝など見えない箇所配線をおこなう。
いたづら防止	灯具：ダブルロック機能のため灯具の傾きなどのいたづらは予防可能 灯具自体の固定はコンクリブロックを掘削可能な範囲で埋設 コンクリ基礎高さの1/2程度を目安に埋設想定 配線：配管による保護 石垣への配管は現状の固定方法を参照
景観配慮に対する考え方	灯具は樹木や石、柵など極力本体が見えにくくなる場所に配置 灯具が見えてしまう場所に関しては竹垣を模した建材による器具隠しを設置（老朽化を抑制し、更新頻度を下げる）

【器具固定方法(案)】

【景観配慮方法(案)】



和歌山城石垣配管状況



器具隠しイメージ
(スポットライト)

器具隠しイメージ
(石垣間接照明用)